

平成27年度 第3回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成27年8月5日（水） 午後4時45分から午後6時45分まで

【開催場所】：教育委員会2階会議室

【出席者】：審議会委員15名

阪根委員、木村委員、先田委員、佐藤委員、大黒委員、高田委員、多智花委員、鍋島委員、西川委員、延本委員、藤井委員、矢金委員、矢野委員、山田委員、山本委員

鳴門市10名

教育次長、教育総務課長、生涯学習人権課長、教育支援室長、体育振興室長、学校教育課主幹、学校教育課長、副課長、事務局2名

傍聴者 なし

○次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 策定スケジュールの変更について
 - (2) 現状と課題について
 - (3) 基本構想について
- 4 その他
- 5 閉 会

○会議資料

次第

- 【資料1】 鳴門市教育振興計画審議会委員一覧（H27.8.5現在）
- 【資料2】 平成27年度第2回教育振興計画審議会会議概要（前回会議録）
- 【資料3】 策定スケジュールの変更について
- 【資料4】 現状と課題のまとめ、基本構想（案）
- 【資料5】 現状と課題、基本理念、基本的な視点、基本方針、施策のまとめ
- 【参考資料】 徳島県、他市町村基本理念、基本構想資料

○会議概要

1 開会

2 阪根会長があいさつを行った。

3 議事

議事（1）策定スケジュールの変更について

事務局より、資料3に基づき説明をした。

会 長

このスケジュールでよろしいか。（⇒異議なし）それでは、異議なしということで、このスケジュールにて進めさせて頂きたいと思う。

議事（2）現状と課題について

事務局より、資料4（p. 1～3「◎現状を踏まえた課題」）に基づき説明をした。

会 長

現状と課題というところを踏まえた上で基本構想へつながっていく。ご質問、ご意見等はいかがか。

A委員

p. 2（7）、2段落目に「その一方で情報通信機器を介した～」とある。コミュニケーションが容易になるというよりは、むしろ、直接会って話をする機会が減り、スマホや携帯で顔を見ずに子ども同士がやり取りをしている。メールやLINEは一方的に情報が相手に伝わる、あるいは正しい情報が伝わらないということがあるため、子ども同士のコミュニケーションが容易になるという表現は違和感をおぼえる。むしろ、直接顔を見て話をするのが子ども達や若者の間では急速に減っている。みんな、やり取りはLINEでやる。あっという間に言いたいことが伝わり、その確認・返事もできるようだが、顔を見て話をする、伝え合う、自分・相手の思いや考えを表情と一緒に読み取ることが急速に欠けてきているような印象がある。コミュニケーション不足だと思うが、いかがだろうか。

会 長

たとえば、「情報機器を介した子ども同士のコミュニケーション活動の変容のなかで、変化のなかで」等、「容易」というよりは「変化してきている」という文言にするのはいかがか。そのように文言を変更して頂ければと思う。

議事（3）基本構想について

事務局より、資料4（p. 4～）、参考資料に基づき説明をした。

会 長

資料5に皆さんに本日協議し、了承いただいた課題があり、それに対して基本理念、基本方針を記載している。この方針があるからこそ施策に通じると思っている。たとえば、徳島県は「地域で新たな価値を創造し」ということで、70何万人の小さな県民だが、県民性の特長を活かし、ICTが盛んである等、新たな価値を創造すると思われる。国際的視野を持つ人が必要ということで、施策として徳島県は英語村等、様々な対応をしている。言葉遊びではなく、書いた以上はその対応が必要であると思う。今日の段階では、皆さんがこの資料を見た段階で、強調すべきところ等、皆さんのご意見を出して頂き、次回につないでいきたいと考えている。

B委員

基本理念の部分において、どういう人を育てるのかということで、ここに書かれてあることも文科省の文言を踏まえるなら、豊かな人間性を地域の中でどのように育むのかが書かれてあり、その豊かな人間性の中身が勉強、スポーツ、道徳心、公共心なのだろうと感じた。p. 5、基本的な視点について、家庭、学校、地域、行政の連携の部分は前回もお示し頂いたが、基本的な視点の中の「教育をきっかけとしてつながり支えあうこと」はすごく重要なポイントだと思う。この文言も言い回しも教育をきっかけに地域がつながり、支えあうということはこれまでも委員会たくさん出てきたことだと思う。気になったことは、（2）期待される役割について、（1）基本的な視点のそれぞれの役割を果たすことを受けて、期待される役割として、家庭の役割、学校の役割、地域の役割がそれぞれ書かれてあるが、家庭・学校・地域が分かれすぎている。連携や協働の中身の部分が見えるような形にできないだろうか。家庭の役割について、生活習慣、規律、自立心等が書かれてあるが、本当の家庭の役割の基盤はほっと安心できる場所として機能するところだと思う。学校の役割について、教育として学校の中でできる社会の変化や個々の発達段階に応じた質の高い教育を提供することと同時に、子どもとその保護者をどう支援するのか、地域と家庭をどうつないでいくのかという役割も学校に求められており、重要な部分かと思う。逆に地域の役割に書かれてあることは、むしろ下に書かれてある協働の話で、地域は地域で地域における教育力の向上、安心安全な環境づくり、防犯・防災の環境づくり等、地域の役割等をこの中には書いた方がいいのではと感じた。連携、協働していく上では、家庭と地域を学校がセンターとなって、学校が教育のきっかけ、つながりあうセンター的な役割が取れば、地域と家庭が密着し、つながっていけないのではないだろうか。前回も地域がもっとサポートしていけたら等の話が出てきていたので、その部分を理念の中に、盛り込めた方がいいのではないかと思う。p. 6の具体的な推進について、課題では家庭、地域のつながりや連携が出てきていたが、基本方針になるとその色が見えなくなってしまっており、もったいないと思う。（2）自ら学ぶ力を育む教育の推進で、1つめの文言は学校の役割について書かれてあり、2つ目は家庭の教育力向上となっており、別々ではなく、「家

庭はすべての教育の出発点という認識のもと、子どもの心身の健康、公共心や道徳心、学びを楽しむ姿勢を育てる家庭の教育力向上に学校や地域が支えます」等のように、つながっていくような話の方がいいかと思う。最後に、基本方針（6）計画の推進に向けた体制の充実ということで、教育行政がどのようにしていくかということが書かれてあるが、教育施策の推進にあたって、地域住民と保護者、学校が連携できるようなしくみづくりに取り組んでいく、教育施策の推進にあたって、p. 2 課題（5）にも書かれてあったが、教育行政のみならず、総合行政として対応していくという文言があった方がよりよいかと思う。また、（6）計画の推進に向けた体制の充実の3つ目の文言について、「適正配置について地域住民、保護者が主導となるような仕組みを作っていきます」等、教育行政だけで引っ張っていくのではなく、地域住民や保護者の方にも参画してもらい連携してやっていくことをいろんなところに散りばめられているとよりわかりやすいかと思う。

会長

今鳴門市内で子育てをしているという視点があるからこそ、今のような話が出てくるのだと思う。鳴門市に住み、鳴門市の一市民として何が大切かを考えたとき、皆さんそれぞれ頑張っている。孤軍奮闘の徳島県は、皆さんがとても頑張っているのにそれに対する成果、効果が出てこないことが多い。孤軍奮闘ではなく、みんなできると変わってくるのではないだろうか。鳴門全体の市の総合計画の中で、結び合う、絆、うずまく等、鳴門独特のキーワードがあるとすれば、我々は「つながる」であると思う。では、つながるためにはどうすればよいか。孤軍奮闘にならないように、学校や地域のきっかけとなる拠点をどのように考えていくのかを盛り込んでいければと思う。家庭を前に置くならば、その家庭を支援する学校と地域があってもいいのではないだろうか。言葉遊びにならない非常に大きなポイントだと思うためご検討頂きたい。

R委員

p. 1（3）学校週5日制の家庭、学校、地域での取り組みについて、学校週5日制の取り組みということで記載されているが、土曜授業があるかということが気になっている。土曜授業について、アンケートがきたりするが、周りのお母さん方、先生のご意見を聞く中で、保護者の中でも賛否両論である。先生方の中にも賛否両論などところがあるのではと予測される。先日、T県I町の小学校PTA会長からのお話で、何年も前から月1回土曜授業として、全校生徒が参加するが、その際、授業としてではなく、鯉とり祭をして大好評で、喜んで参加しているという話を聞いた。鳴門市において、土曜授業がどのようになるのか今後注目するところかと思う。（7）情報通信機器の急速な普及への対応について、他町の中学校PTAで、夜9時以降は子どもから携帯を取り上げるという方法を取っていると聞いた。今のところ、いい方向に向かっているのではないかと聞いている。難しい問題だと思うが、教育委員会を通じて、ご指導して頂ければと思う。

会 長

土曜授業のあり方が今後問われてくるとき、この教育基本計画の中でどのように扱っていくのか。土曜授業をするとしても、基本計画の中に、土曜日はどうなのかという力点があることによってもやり方は変わってくる。学力向上の中に入れての土曜授業か、地域性、つなぐためなのかというところにもかかってくる。また、携帯、スマートフォンについて、県、町によっては、21 時以降禁止ということを出す。賛否両論はあるだろうが、一つの手法であるとする。課題があるからこそ、それに対する動き、施策として動いていく。その間に置くこのポイントをどうあるべきなのかという発想だと思うので、考えて頂ければありがたい。

G委員

昔は夏場なら海水浴場もあり、遊ぶところもたくさんあった。今は暑く、公園の用具や海水浴場もなく、子ども達は外までゲーム機を持って、陰で遊んでいる状況である。夜9時以降だけではなく、外出するときはゲーム機を持ち出さないこととすることで、基本方針（4）健やかな身体を育む教育の推進につながるのではないだろうか。昔遊びなら、いろいろな筋肉、身体も使うため、身体も育っていくと思う。外で遊ぶことで地域の人との関わり合いもでき、自分のまちを知ることでもでき、伝統行事に参加する気持ちにもなるのではないだろうか。今は時代が時代のため、豊かすぎて、危なく、住みにくい点もあるかと思うが、そこは大人が外に出て、子ども達に関わっていき、たくさんの目で子ども達を見ていけば、いいように育つのではないかと思う。

K委員

（参考資料）他市町村の理念について、A市の理念の表記の仕方がよいと思う。本人、家庭、学校（園）、教育委員会、地域と明確に書かれてある。文言も大事だが、このようなまとめ方をすると、みんなが見るときに「そうだな」とわかりやすい。もう1つ気になったのが、資料4、p. 6（1）特色ある鳴門市教育の推進について、鳴門の特色があるのは鳴門教育大学のことぐらいで、他のことはどこにでもあることではないだろうか。よりシンプルな形が大事なのではないかと思う。いろいろ書かれてあるが、最終的には、家庭、地域、学校等が一体になって子どもを育ていくということが大切である。p. 4に「めざすもの ・子どものために ・親も地域も一緒に育つ ・鳴門に住んでもらえるまちにする ・教育のまち」とあるが、このように「あ、素晴らしい」という感じがするのではないだろうか。いろいろ文言ができてくるとあれもこれも書きたいとなるが、本当に出たときに読んでもらえるのは、よりシンプルに「そうなんだ」と思ってもらえるものから始まり、そこから具体的にどうするのかということになる。ある程度の資料となると、具体性がぼやけるところが多いと感じる。いかにシンプルにみんなが見てわかりやすく思えるかという方向で進めていく方がよいのではないだろうか。同じことが文言の中に並ぶとわかりにくくなる。あれもこれもではなく、いかに絞り込むかということが大切だと思う。

会 長

大学がある市はそれほどたくさんない。その市町にあるものをうまく活かしていければいいと思う。

事務局

K委員のご質問、特色ある鳴門市教育の推進について、補足説明をさせて頂きたい。教育環境や学校防災、危機管理等をなぜ鳴門の特色にあげているかという点、重要度・満足度調査の際、防災教育について、満足度が高く、重要度も高いということと点数が高かった。鳴門市の特色として捉えていいのではと考える。また、重要度は高いが満足度は低い、教育施設についてもやっていかなければならないとの思いがある。国際理解教育、外国語教育については、かなり力を入れてやっている最中で、満足度としては表れていないが、鳴門市教育の特色として今後もやっていきたい、取り組んでいきたいという思いも込め、入れさせて頂いた。

K委員

具体的なこれが鳴門なのだということがわかりにくい。これを読んで、そこまで読み取れる人は少ないと思う。説明を聞くとわかるが、いちいち説明することはできないため、聞いてわかるのではなく、読んでわかりやすいということが大切だと思う。

S委員

p. 3 (10) 地域の歴史や伝統文化の継承について、地元の大谷焼を入れてもらえたらと思う。県P連のぴよっこくらぶという定期機関紙があり、幼稚園の紹介をしている。今回担当となり、大麻町は大谷焼も含め、胸を張って誇れるものが多数ある。そうしたことを鳴門市全体で教育の中に入れ、PRしていくことはいいことだと思う。地元の小学校では秋に窯まつりというものがあり、大谷焼の窯元に行き写生をさせてもらっている。そのようなことを通じて、地域の特産、伝統を覚えることにつながるのではないだろうか。それが、p. 7 (5) 郷土愛を育む歴史文化教育の推進にもリンクするのではないかと思う。

O委員

子どもを教育するのは、教師であり、親であり、地域の人々である。そのうち、一番大切なのは、教師にどれだけ情熱があるかということだと考える。子ども一人ひとりを見て、命をかけて、子どもが素晴らしく成長するために情熱を持たなければならない。そうなるためには校長のあり方が大切である。子どもが情熱に燃えるのは周囲の環境が非常に大きいものである。教師と家庭がどのように心を打ち明けて、情熱を持って、子どもと接するかということ、愛情が大切である。

T委員

人権フォーラムでも教師の情熱が大事だという高校生からの提言があった。この基本方針は素晴らしいと思う。基本理念が十分にまとまっていないところはあるが、この形で進めて頂けるとありがたい。今、いじめの問題、DVの問題が非常に気になる。徳島県は全国的に見ても、人権教育の先進県だと思っているが、その中で、この文言の中で「命の教育」という文言をどこかに入れてもらえないだろうかと思う。

N委員

学校週5日制の問題について、徳島新聞で土曜日に授業を行ったアンケート調査結果が先日出ていた。保護者の人は60~70%の人が土曜授業賛成であったが、教職員は90%以上の人が時間がとれない等で反対であった。このギャップは何なのか。これは週5日制についても一度考えることが必要なのではないだろうか。鳴門のアンケートを見ても、マイナス思考の結果が多かったと思うため、考えてほしいと思う。鳴門の特色ある教育の中で、県外から来た人に言わせると、鳴門は自然が多いのになぜ役立てないのかという意見をよく聞く。ぜひとも自然を活かした教育も盛り込んでほしい。歴史伝統文化の継承について、小学校では授業に阿波踊りを取り入れているところもある。県外に行き徳島出身と言うと「阿波踊りを踊れるだろう」とよく言われる。伝統を守り、徳島の特色として、阿波踊りを踊れる人材を育てていくことがよいと思う。家庭、学校、地域の役割が書かれてあるが、役割はあると思うが、3つを考えたとき、基本的にはどれ1つ欠けてもいけない。家庭、学校、地域3つが共に育てる「共育」を目指したらどうだろうか。1つ1つの役割もあるが、それが1つになって、子ども達のことを考えていく。学校も家庭も地域も共に学んで育てていこうという共育が望ましいのではないか。家庭や地域が連携をとると、PTA活動にも学校にも反映するのではないかと思う。これまでの子ども達の教育は、「危険なところに近寄ってはいけません」等、すべて「いけません」でくくっていると思う。高P連の研修で、海外の教育事業の講演があった。「危険なところに行ったらこのような危険があるから、このような対処をなさい」という、「行ってはいけない」ではなく、危険なことにあったときにどう対処するのかという教育が変わってきているとのことである。危険はたくさんあるがそれに対する対処法がこれからの教育には必要ではないかということ saying it.

P委員

p. 1 (2) 学力向上への取り組みについて、今までは先生が一方的に話をして授業が進んでいくことが多かったが、だんだん、子ども達に考えさせるように学習指導要領も変わってきている。しかし、学習指導要領にあわせるのではなく、これまでのやり方で授業をされている先生も中にはいらっしゃるようだ。子どもが面白いと感じる授業を教師が情熱を持ってすることが必要だと思う。家庭や地域を取り巻く環境変化への対応で、他の人と顔をあわせる機会が少なくなっているが、親が挨拶をするから子どももそれを真似して挨拶をするようになると思う。鳴門市は地域の方と出会える機会がある地域だと思うので、そのような機会がもっと増え、子ども

達もいろいろな方と話ができればいいと思った。

Q委員

p. 2 (8) 人権の尊重と道徳心、公共心の育成が一番大事だと思う。道徳教育はやっていると思うが、ただ言うのでは不十分だと思う。40年ほど前、子ども会活動でオアシス運動があったが、今は挨拶ができない、きまりが守れないが増えている。ありがとうという感謝の気持ち、失礼します、すみませんという相手を敬う謙虚な心、これが道徳教育の中心だと思う。昔の教育勅語のいいところも悪いところもあるが、大人が挨拶をすると子どもも自然とそうなる。社会全体が、知らない人からはすぐ逃げるといった警戒心を持つ状況ではあるが、ただ「いけません」と言うのではなく、人を見る目を養うことも必要である。また、(9) 食や健康、スポーツ志向の高まりへの対応について、鳴門市はいろいろな食べ物がとれる。地元の産物をどんどん取り入れて、給食に反映するように入れたらいいのではないだろうか。地産地消を文言として入れたらどうだろうか。

F委員

(9) 食とスポーツについて、地産地消については、何年か前から給食の献立表に鳴門産のものには印がつくようになった。鳴門は卓球が強く、社会人のバスケットボールが強い時代があった。平成5年に国体があり、あれから20年経ち、もう少し頑張って、野球以外でも上にあがれる指導者を呼んでもらえたらと思う。鳴門教育大学との連携について、保護者の方にもっと周知してもらえたらと思う。キャリア教育について、自分の将来について「とりあえず」という感覚の子どもが多いようである。いい社会人になれない要因となりかねないため、小さいころからのキャリア教育をもっとやる必要があると思う。

I委員

もう少し深く生涯学習に取り組む方がいいのではないだろうか。基本理念(2)自ら学ぶ力を育む教育の推進について、「すべての人が生きがいをもって～めざします。」という文言があるが、せっかく教育委員会が出すのだから「支援します」という言葉も入れた方がいいのではないだろうか。教育委員会の前向きな姿勢を市民にもっと訴えた方が、より市民に親しみやすい計画になるのではないかと思う。また、基本理念(5)郷土愛を育む歴史文化教育の推進について、子どもにも故郷の学びを体験させてほしい。大人については、地域・文化財について語れる人を養成していくことが必要だと思う。学生の頭がいいというのは物覚えがいいということであるが、社会に出ると知識を活かすことが大切である。そうした育ても含めた教育が必要であり、そのような文言が入ればありがたいと思う。

H委員

食に関して、地域の特色を活かした等があるが、その前のことを言いたい。先日、市場の審議会で市場の方が、魚の名前も知らないお母さんがいらっしやると言われていた。スーパーで売っている魚の切り身のもとの形を知らない。親がもっと自然に触れることが必要であると考えます。家庭での教育が大切である。また、スマートフ

オン等、現代機器に対しての危険性を学校でも考えることが必要であると思う。最後に、安全で快適な教育環境の整備をもっと考えなくてはならないと思う。M市の体育館はとてもきれいで冷房がよくきいていて素晴らしいところだった。そういった環境の中で生活できることは、子どもにとっても重要だと思う。快適な教育環境を作ることも必要であると思う。

A委員

今までの審議会の意見を取り入れながら絞ってこられ、先が見えてきたような気がする。基本構想や基本理念は国も県も市町村も似ている。どうやって施策を進めるかの具体的なところで鳴門らしさを出したらいいのではないだろうか。教師も親も「このような子どもに育てたい」という理念を持って子育てや教育をしている。基本は、どういう人を育てるのかということであり、これが基本構想、理念のメインになるのではないかと思う。地方創生の中で、国はひと・まち・しごとをキーワードにあげている。ひとづくり、まちづくり、しごとを生み出すということで活性化をしようということだが、基本になるのはひとづくりではないだろうか。ひとづくりが教育基本計画では、メインになると思う。期待される役割（p. 5）について、図式化する時にはつながりあうようになるとイメージしている。家庭を1番に持ってきているのはユニークでよいのではないかと思う。基本は家庭教育が子ども達の人格形成に大きく関わる。つながるという言葉がキーワードになるようなので、図式化するとうまく3つがつながり、鳴門市の基本方針が出てくるのではないかと思う。また、p. 6（3）豊かな心を育む教育の推進が重要だと思う。日々、いろんな事件が起こっている。いじめが起こったとき、学校は何をしているのだと学校が取り上げられ、家庭のことは報道されない。思いやりの心について、大人社会も自分がよければよいという風潮が強いような気がする。昔は人様に迷惑をかけるなど言われていた。今は自己中心の社会になっている。身体障害者の駐車場は入口の近くにある。近くて便利だからと思っていたが、身体障害者の方に「近いから便利なのではなく安全だからだ」と言われてはっとした。その駐車スペースに車を停める親がいる。思いやりの心、感謝する心が薄れているように思う。感謝する心、思いやりの心、コミュニケーションの力を文言として入れて頂ければありがたいと思う。（4）健やかな身体を育む教育の推進について、「スポーツ」の言葉が多く出てきているが、スポーツが得意な人はいいが苦手な人は足が止まるため、「身体を動かすこと」「運動」という言葉をつけると親しみを持てるのではないだろうか。

会 長

いただきましたご意見を事務局にて、検討材料として入れて頂ければと思う。

- 4 その他として、事務局より次回審議会開催について、9月8日はキャンセル、10月中を予定と伝えた。
- 5 閉会